1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0292400116		
法人名	社会福祉法人奥津軽会		
事業所名	グループホームなかさと		
所在地	青森県北津軽郡中泊町大字中里字亀山434番地1		
自己評価作成日	令和2年1月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人　青森県社会福祉協議会
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号
訪問調査日	令和3年2月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者様は、在宅生活時に比べて外出の機会が少なくなっているため、余暇活動で季節ごとの行事や手工芸でその季節の作品を作ったり、施設の窓辺から見える場所に沢山のプランターに植えた色とりどりの花を配置し、窓を開けて風を感じ、きれいな空気や花で季節を感じてもらっている。利用者様と御家族の思いに寄り添い、全職員で支援方法を模索しながら支援している。2ヶ月毎に発行しているなかさとだよりで、ホームでの利用者様の元気な様子を御家族にお知らせしている。県外在住の御家族には、その都度の電話連絡で状態説明と近況報告を行い、御家族との連携を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

ホームは、利用者や職員が住み慣れた地域に立地しており、地域住民とも顔馴染みの関係ができており、特別養護老人ホームや併設の小規模多機能型施設と共に地域の中の施設として認知されている。
法人理事長をはじめ、職員一丸となって、地域との繋がりを大事にしながらより良い地域密着型サービスの提供に邁進している。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者様の日々の生活に寄り添い、今日も一日ていねいに、地域とともに」を理念に掲げている。毎朝、申し送りで斉唱し、理念の周知徹底を図ってサービス提供に反映している。	地域密着型サービスの役割を反映した理念が作成している。管理者及び職員は地域とのつながりを大事にして、毎日振り返りを行い、理念を反映させたケアの提供に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度はコロナ禍により、地域との交流や御家族との面会ができない状況だった。	近隣住民は顔馴染みが多く、果物や野菜の差し入れや毎年花のプランターをホームの周りに設置している。また、ホームの夏祭りへの招待や地域の祭りへの参加等、普段から活発に地域との交流が行われている。現在は、新型コロナウイルス感染予防のため面会制限中である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「認知症の理解とケアのあり方について」の研修に参加して知識の向上に努めている。認知症に関する相談は、随時応じている。利用者様が利用していた地域の床屋や美容院の関係を断ち切らないように細心の注意をしている。散髪を玄関先で実施して、利用者様の状態を地域の人達に理解していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回、運営推進会議を開催している。会議の出席者からの質問や提案を参考にしている。また、今後のサービス向上に繋がるように努めている。	新型コロナウイルス感染症により開催できないため、各メンバーに利用者状況や活動内容等の資料を郵送している。意見やアドバイスをいただき、今後のサービス向上に役立てるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター主催の地域ケア会議や各種研修に職員が積極的に参加している。行政の担当者に疑問や分からないことを指導していただいている。また、他事業所の取り組みを聞き、ケアサービスの向上に繋げている。	地域ケア会議の場で情報交換をしている。町役場担当者に介護保険や制度上の問題、不明な点について相談し、連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のマニュアルを整備して、身体拘束対象行為の理解に努めている。日中は、玄関を施錠していない。	身体拘束に関するマニュアルを整備しており、定期的に身体拘束適正化委員会を開催している。全職員が身体拘束の内容や弊害について理解を深め、身体拘束は行わない姿勢で日々のケアを提供している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会を開催している。虐待が見過ごされないように、表情の観察と週3回の入浴時に皮膚の状態等を観察している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修を実施して、知識の向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書と契約書を用いて説明している。御家族の疑問や不安に思っていることを十分理解し、丁寧に説明を行ってから契約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様・御家族が不安に思っていることや要望、提案等をその都度聞き、できる限り迅速に対応している。また、玄関に意見箱を設置している。	意見や苦情受付窓口を重要事項説明書に明示しており、出された意見や苦情は、全職員で話し合い、速やかな対応を行う体制を整備している。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送りや職員会議で職員の提案を聞いている。職員間で話し合いをして、必要なことは仕事に反映している。	職員会議で職員の意見や提案を検討する体制となっている。また、毎朝法人理事長が顔を出して、職員から直接意見や要望を確認している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の得意分野を生かした役割ややりがい、向上心を持って職務に励むことができるようにしている。また、勤務時間や夏季休暇、有休休暇の取得ができる環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が外部研修に参加して得たことを内部研修で行い、情報・知識を共有して各職員のスキルアップにつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム交流会や研修会に参加して、他事業所職員と情報交換等を行っている。日々のサービス提供においての気づき等となっており、サービス向上につなげている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の不安や疑問等をゆっくりと傾聴している。安心して施設で日々過ごせるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	県外在住の御家族とは、入所申し込み相談時から電話連絡を行い、信頼関係を築いて入所していただいている。また、御家族からの疑問や要望にその都度対応している。その他の御家族も電話等で疑問等に対応して関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の状態等を見極めている。また、利用者様と御家族の思いを聞き、サービス提供に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の動作・表情等を観察し、言葉に表せないことを導き出して思いを共感している。不安等を払拭し、穏やかに生活できるよう支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族と生活環境や身体状況等の情報を共有し、御家族が利用者様を心配することなく生活できるように対応している。利用者様と御家族の絆が希薄にならないように、御家族の協力が得られる関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様や御家族の要望により、馴染みの床屋や美容院を利用して地域の人達と触れ合い、利用者様に地域の一員であることを感じてもらえるように努めている。	地域住民は、利用者や職員との昔からの知り合いが多く、顔馴染みの関係ができている。アセスメントや日常の会話の中から情報収集を行い、入居後も友人や知人との関係継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の状態を観察して職員が積極的に声掛けをして、利用者様の共通の話題や記憶に残っている話題を提供している。また、他利用者様の体調不良時や不穏状態時に痛みを共有できるよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約の際に、サービス終了後も相談・支援等できる限りお手伝いしていくことを伝えている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員を中心にケース会議で利用者様の意向・希望等の情報を共有している。全職員が利用者様の思いに寄り添ったサービスを提供できるように努め、困難な場合は利用者様本位に検討している。	普段の利用者との会話や表情、仕草を通して、思いや意向を把握し、全職員で情報共有している。また、家族からも情報収集を行い、より良いケアに反映できるように務めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様や御家族、在宅時担当ケアマネジャーより生活歴やライフスタイル、趣味等の情報を収集している。これまでの生活を大きく変えることなく日々過ごせるようにサービスを提供している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々状態を観察して、個別に生活リズムを全職員が把握できるように努めている。また、利用者様のできることや理解力を把握し、日々のサービス提供につなげている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様・御家族の意向等を介護計画に反映させている。また、ケース会議で利用者様の課題の有無を検討し、介護計画に基づいたサービスを提供できているか評価している。また、新しい課題の支援について随時話し合いを行っている。	毎回利用者や家族から意向確認すると共に、職員の気づきや意見を反映させ、一人ひとりの状態や希望に合わせた利用者本位の具体的な介護計画を作成している。利用者の身体状況や家族の希望等に変化があったときは、再アセスメントを行い、随時介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状態を観察し、ケース記録に入力している。連絡ノートを活用しながら全職員が記録内容を把握し、管理者が月毎に評価を行い、介護計画の見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今年度は、通院はかかりつけ医の指示に従い、本人受診や代理受診の対応をしている。買い物やお墓参りができず、利用者様には我慢の一年となっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で、利用者様や御家族、行政、地域包括支援センター、地域住民、民生委員等と意見や情報交換を行っている。情報収集をしながら支援をしていたが、今年度は安全で豊かな暮らしを楽しめる支援は十分にできなかった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様と御家族の希望に添った医療機関を受診できるように支援をしている。かかりつけ医に情報提供し、適切な医療が受けられるように支援している。また、初診時や検査・説明等には御家族に同行依頼し、病状や治療方針を共有し、支援をしている。	アセスメントにより利用者の受療状況を把握して、入居前の医療機関受診継続できるように支援をしている。また、専門医療機関受診の支援も行っている。受診対応は職員が行い、結果を家族に報告して共有している。。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は同じ敷地内にある小規模多機能の看護職員と情報共有を行っている。利用者様の状態に変化が見られたときは、看護職員に相談して受診の必要性を見極めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の中で入院した方はいないが、入院時は連携できるように、日頃から病院関係者との関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取組んでいる	入所時に重度化や終末期の対応について、利用者様や御家族に説明している。対象となるケースがあったときは、早い段階で利用者様と御家族に説明を行い、方針を共有し、チームで支援できるように取り組んでいる。	重度化や終末期の対応は行っていないことや急変時や重度化した場合は、利用者や家族の意向に応じて、医療機関や他施設への移動等の相談に乗ることを説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡網を整備している。また、急変時の研修を実施して、知識の向上に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	新型コロナウイルス感染症予防のため、災害時の訓練はできなかった。朝の申し送りの際に、口頭で火災発生時の避難場所等の確認を行っている。	緊急避難誘導マニュアルを作成しており、定期的に消火設備点検と避難経路確認を行っている。災害発生に備え、近隣住民や消防署の協力体制を整えているほか、食料品や飲料水、発電機を常備している。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様は人生の大先輩であることと、職員はサービスを提供させていただいていることを肝に銘じて、人格を傷つけないように取り組んでいる。その場面、場面でウィットに富んだ声掛けや笑顔での対応を心掛けている。	利用者の尊厳を大事にしており、自尊心やプライバシーに配慮した声掛けやケアを行っている。職員は、入職時に守秘義務や個人情報の取扱いについて説明を受けており、遵守している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の性格や意思伝達の能力を考慮し、日頃から表情・動作等を観察し、職員が声掛け等で伝達したいことを導き出している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは決まっているが、その時々で声掛けを行い、利用者様の希望に沿った過ごし方ができるように配慮している。余暇活動は強制せず、参加の有無は利用者様が決めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれを生涯忘れてほしくないという思いで支援している。整容はさりげない声掛けで対応している。地域との関わりがなくならないように、馴染みの理美容院を利用している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル・お盆拭き等を無理のない範囲内で手伝ってもらっている。昼食は職員と利用者様が一緒のテーブルに着き、食べこぼしやむせ込みがないか見守りしながら摂っている。食べれない物や苦手な物は代替食で提供している。	食事は業者に委託しており、利用者の嗜好や禁忌物、咀嚼状況に応じて、食形態に配慮しながら提供している。山菜の皮むきやテーブル拭き等、利用者の意思や能力に応じた作業を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量は記録に残し、全職員で把握して支援を行っている。法人内の施設に栄養士がいるので、指導や助言をもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがいと歯磨きを実施している。忘れる利用者様には、声がけを行って口腔ケア内の清潔保持が維持できるように努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握している。リハビリパンツや尿取りパットの使用については、利用者様の意見を聞き、職員で話し合いをして見直しを行っている。夜間のポータブルトイレ使用の必要性等は、利用者様の思いを聞き、身体機能も加味して見直している。	排泄チェック表により利用者一人ひとりの排泄状況を把握して、羞恥心やプライバシーに配慮しながら定時トイレ誘導を行っている。誘導時間や排泄用品の使用について、本人の意向確認しながら随時見直しを行い、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を職員が理解している。便秘が続いたときは、果物の摂取や乳製品の摂取量等を考慮したり、運動を取り入れて腸の働きが活発なるように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴日は週3回としている。曜日や入浴時間はホームで決めているが、入浴の順番等は利用者様の要望を取り入れている。利用者様の状態に応じて、足浴やシャワー浴等、臨機応変に対応している。	週3回入浴日を設け、利用者の入浴習慣や好みに合わせ、週2回は必ず入浴できるようにしている。利用者の状態に応じて、シャワー浴やリフト浴等、身体的負担感に配慮しながら入浴支援をしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	可能な限り利用者様の意思に任せている。一人ひとりの生活リズムを把握し、眠れない利用者様には原因を見極めて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が利用者様の病歴等を理解し、薬の内容等を把握できるように取り組んでいる。飲み忘れや飲み違いを防ぐようにチェック体制をとっている。服薬により状態変化がないか観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの希望や特技、生活歴や性格等に考慮して役割をお願いしている。利用者様に余暇活動を提案してもらい、考える力を導き出している。嗜好品は、過度にならないように話し合って対応をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出制限があり、通院以外は外出できていない。利用者様のストレス解消のために、近くの公園の桜を車内で見る等している。また、新大橋が開通したので、ドライブを兼ねて渡り初めを数回に分けて実施した。天気の良い日は日光浴を兼ねて数人で施設の敷地内を散歩している。	以前は利用者の希望を取り入れた年間の外出行事を企画し行っていたが、現在は新型コロナウイルス感染症予防のため、遠方への外出行事は行っていない。敷地内の散歩やドライブをして、利用者の気分転換につながるように支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理はホームで行っている。利用者様から買い物の要望があったときは、所持金の台帳の残高を伝えている。自分の財布からお金を出す行為がほとんどないため、ホーム行事では利用者様に少額を渡して自ら支払ってもらうように支援をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙等は利用者様の意思に任せている。利用者様宛の手紙はご自身で開封してもらい、職員が読むことはしていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの外に色とりどりの花を配置しており、窓を開けて、日光や風、空気を吸う等して季節を体感してもらっている。利用者様に水やりや古い葉を摘み取ってもらい、きれいな花を楽しんでもらっている。	ホールの窓から明るい日差しが差し込み、天気の良い日は壮大な岩木山を望むことができる。全館床暖房やエアコンにより適切な温度管理が行われている。テーブルやソファーが配置され、利用者が居心地良く過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間はいつでも自由に利用できる。食事の席は、利用者様同士の関係を考慮して、時々席替えを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に御家族にお願いして、馴染みの物を持って来てもらっている。居室の飾り等は、自分でできない利用者様には職員が助言等を行い、お手伝いをしている。	利用者の愛用品のほか、家族写真や位牌等の持ち込みがある。各部屋には洗面とトイレが完備している。利用者の意向に沿いながら、落ち着いて過ごすことができるように居室作りを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境面や福祉用具等を整備しており、移動等は身体機能に応じて、安心・安全にできる。		